

長生村長賞

なだかみ  
灘上

ふみひこ  
文彦

君の言葉は、生きている

灘上 文彦

君は泳ぎきってしまったね。人生のプールを。  
中学の3年間、同じ水泳部で僕はクロール、君はバタフライ。  
君は大きな体で、太い腕を水面に叩きつける豪快な泳ぎだったよ。  
そんな君は、陸に上がるとコメディアンに変身。文化祭では舞台の上で、  
相棒と「銭湯をちょっと覗いて」と、あのコントは面白かった。  
君が卒業してから、俳優や声優をやっていると噂を聞いていたよ。  
やっと連絡先が分かって、同窓会の開催通知を出したら、僕の携帯に  
「仕事が入って行けないけど、次は絶対に出るからね。」と。  
もちろん、了解。もし会えたら、卒業以来45年ぶりになるね。  
ところがすぐに、奥様からメールをもらった。君が亡くなったと。  
急性くも膜下出血。  
続いて通夜と告別式の知らせが入ってきた。  
僕はもう同窓会どころじゃない。水泳部仲間を斎場に集めたよ。  
45年ぶりに、斎場で水泳部の同窓会。  
まさか棺の中の君に会おうとは思わなかった。  
眠っているような君を見ていると、僕は君の声を聞きたくなかった。  
夜のこと、僕はテレビでアメリカ映画を観た。君が主演の声優だ。  
セリフの間から、「僕は生きている。」と叫んでいるように思えたよ。  
僕はすぐに君の出演した作品を調べた。僕が楽しんだ作品が幾つもあった。  
僕は君と何度も会っていたんだね。  
僕は思ったよ。僕があのお世まで泳ぎ切ったら、同窓会をやろうと。  
そのときは、新しいコントを頼むよ。君の出番だ。

40数年ぶりに連絡がつきながら、急逝した友人に伝えることが  
出来なかった私の想いを書き記しました。

社会福祉法人愛の友協会